



2021年9月29日

各位

スパークス・グループ株式会社  
代表取締役社長 グループ CEO 阿部 修平  
(コード8739 東証第一部)

**「未来創生 2号ファンド」**  
**持続可能な酪農・畜産を目指す株式会社ファームノートホールディングスへの投資実行**  
—酪農のデジタルトランスフォーメーションを推進—

スパークス・グループ株式会社（以下、スパークスと表記）は、2018年7月に設立した「未来創生 2号ファンド」が、酪農のデジタルトランスフォーメーション(DX)を通じて社会課題の解決を進める株式会社ファームノートホールディングス（本社：北海道帯広市、代表取締役社長：小林晋也。以下、ファームノート社と表記）への投資（金額は非開示）を実行しましたので、お知らせします。ファームノート社は今回の調達資金を活用し、ICTを活用した牛群管理事業の拡大、酪農のDX化技術等の開発力の強化を行ってまいります。

■投資先企業の概要

ファームノート社は「技術革新を通じて、持続可能な地球の豊かさに貢献する」という経営理念を掲げています。「Farmnote Cloud」および「Farmnote Color」という商品名で、スマートフォン、タブレットなどで牛群管理が可能なデバイスおよびシステムを提供しております。さらに、獣医師などのプロフェッショナルが酪農経営の課題を発見・改善提案する「Farmnote Compass」というサービス事業にも取り組んでおります。そして、これらデジタル技術と生産技術等を統合させた酪農DX牧場「Farmnote Dairy Platform」を北海道・中標津町にて展開し、稼働約8ヶ月後にはEBITDA黒字を達成しております。離農者の増加による人手不足、事業収益の向上および飼養牛による地球環境への負荷の低減等、喫緊の社会課題に対して、DX化を通じた次世代の酪農・畜産の事業モデルを目指している会社です。今後は、同社が培ってきた生産技術や環境対策技術を集積することにより、地球環境に配慮した持続可能な酪農・畜産事業の発展に貢献していきます。

■「未来創生（1号）ファンド」及び「未来創生 2号ファンド」の概要

未来創生（1号）ファンドはスパークスを運営者とし、トヨタ自動車株式会社、株式会社三井住友銀行を加えた3社による総額約135億円の出資により、2015年11月より運用を開始しました。最終的には、上記3社を加えた計20社からの出資を受けました。「知能化技術」「ロボティクス」「水素社会実現に資する技術」を中核技術と位置づけ、それらの分野の革新技術を持つ企業、またはプロジェクトを対象に米国、英国、イスラエル、シンガポール、日本の約50社に投資しました。2018年下半期には、既存投資領域3分野に加え、新たに「電動化」、「新素材」を投資対象とした未来創生 2号ファンドの運用を開始しました。2021年8月末時点の運用資産残高は、1号と2号あわせて、883億円となっています。

未来創生ファンドの投資実績：<https://mirai.sparx.co.jp/investment/>

■ 本件に関するお問い合わせ先



スパークス・グループ株式会社 広報室  
TEL : 03-6711-9100 / FAX : 03-6711-9101  
pr\_media@sparxgroup.com